

# 響流

HIBIKI

高田教区報

高田教区 教化テーマ

私はどこで生きているのか  
～たずねよう 真宗の教えに～

2022年7月27日 第155号

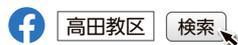


灌仏会（花まつり）  
新井別院にて

自分  
を  
正  
当  
化  
す  
れ  
ば  
謝  
る  
こ  
と  
が  
ど  
こ  
に  
あ  
る  
か  
を  
た  
ず  
ね  
よ  
う

淀野 泰元書

（上越市 小学校五年生）



発行所 真宗大谷派（東本願寺）高田教務所  
上越市寺町2-24-4 ☎025-524-3913  
<http://www.takada-kyoku.jp>  
発行 橘 秀憲  
印刷 永田印刷株式会社

記念講演はYouTubeにて公開中！  
<https://youtu.be/IEEaX-3ij0c>



記念講演

講師：楠 信生氏



帰敬式

執行：大谷暢裕門首



サブ会場では一般参詣者が帰敬式受式の様子をモニター越しで見守りました



野外では日用品バザーの他、スキー汁、おやきなどが振る舞われました



去る4月16日(土)に、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要 高田教区お待ち受け大会」を高田別院にて開催いたしました。大谷暢裕門首の執行による帰敬式では、新たに106名の方が法名を授かり、仏弟子とされました。また前教学研究所長の楠信生氏による記念講演では、インターネット同時配信も行い、参拝が叶わなかった多くの方にもご聴講いただき、大変ありがたいご縁となりました。

# 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要 高田教区 お待ち受け大会

開催報告

# 珠数つなぎ法話

- 次回 大西
- 今回 水嶋
- 第6回 豊島
- 第5回 井上
- 第4回 比後
- 第3回 渡邊
- 第2回 藤島
- 第1回 金子

リレー方式の珠数つなぎで法話をいただくコーナーです。

## 第7回 念仏して何になる？

第1組 光徳寺 水嶋 聡

念仏してどうなるのか。苦しいときの神頼みというが、念仏して苦しみが解決するわけでもない。では念仏して何になるのだろうか。

そのことを人に尋ねたことがある。すると「君は何に成りたいのだね」と逆に尋ねられた。普通何に成りたいか聞かれると、職業を答えるのであるが、もうすでに職に就いている。今さらに成りたいかと尋ねられても返答に困る。

しかし普段の生活を思ってみると、金持ちに成りたかったり、健康に成りたかったり、信頼される人に成りたかったりと成りたいものが色々出てくる。突き詰めてみれば、幸せに成りたいのだと思う。

人は自分の幸せを求め、家族の幸せを求め、地域や国の人々の幸せを求め生活している。つまり幸せのために、仕事をしたり、健康に留意したり、人間関係を重んじたりしている。一方、

幸せのために辛い仕事をしたり、闘病したり、会いたくない人に会ったりと、幸せのために苦しむこともある。今は苦しいが未来の幸せのために我慢する。考えてみれば、幸せを求めながら苦しんできたのも人の営みだと思う。しかし、いつ満足するような幸せに成れるのだろうか。もし成れないならば苦労は何のためなのだろう。そんな空しさに蓋をするように、妥協しながら、ごまかしながら、この辺でいいかと折り合いをつけているのが私ではないだろうか。

そのような私を憐れみ、護ろうとされるのが阿弥陀仏である。「本願を信じ念仏申さば仏に成る」と教わるが、幸せになりたい私には仏に成りたいという思いは起こってこない。私の念仏はあいまいである。しかし、そのような私の思いに関係なく阿弥陀仏は、私の一生涯を空しくさせないように、私の一生が満足するようにと私を仏に成らせようとされる。そのためにどこまでも私と一緒に生きていきたくせよと誓われた。自らの人生に妥協しながら、折り合いをつけながらしか生きることが出来ない者を背負い、その者以上にその者の一生を無駄にしないと呼びかけ続けてくださるのが阿弥陀仏である。

その阿弥陀仏を念じてきた歴史が念仏の歴史であり、その念仏を私は今聞いているのである。

今回は第1組 光徳寺 大西 真志さんです。

# 念仏して何になる？

⑦

## 答

一二〇七（建永二年、承元の法難が起こり、吉水教団の門弟四人が死罪、法然上人以下八人の遠流が決まりました。『御伝鈔』には「鸞聖人罪名藤井善信（よしさね）、配所越後国 国府」とあり、親鸞聖人は越後に遠流と定まりました。

何故越後に遠流に処せられたのか。まず『延喜式』では越後は遠流の国にはなっていない。ところが九条兼実の日記『玉葉』の一一八六（文治二年）の記述には、遠流の国が少ないことから、越後も遠流の国に追加されています。

では何故越後だったのか。この頃、遠流に処せられた罪人は、それを預かる人が必要で、それを同族から選ぶ風習がありました。身元引受人です。その役を務めたのが、父の次兄である伯父日野宗業でした。宗業は、弾圧の前月にすでに越後権介に任命されます。権は仮・臨時、介は国守の次の二等官を意味しています。つまり越後に遠流に定まる前に、任命があったこととなります。私は、そこに妻惠信尼の三善家が関係すると考えています。三善家は為長・為康・為則の三代、越後介に就任した家系と考えられています。為則（為教）は、法然を庇護した九条兼実の家司（家政職員）で、惠信尼の父です。

惠信尼が晩年住んだ「とひたのまき」も父から相続した所領でしょう。この三善家の縁で越後に定まり、その身元引受人として宗業が越後権介に任命されたことと見込んでいます。彼は、一二一〇（承元四）年末まで、四年程の長期間この役を務めています。処遇はすでに全国均等ではなく、責任者次第の時代でした。国守や介に任命されても、遙任といって、在京のまま俸禄等を得る慣習が常態化していました。宗業も、目代（代務）を赴任させて、越後には行っていない可能性が高いでしょう。しかし介は、在地の郡司には上司に当たります。その身を冷遇しなかったと思います。聖人が当初住んだ竹ノ内の草庵は、その「館の内（たてのうち）」という意味だとされています。雨風もしのげない流人小屋に住ませたとはいえない。二年目から竹力前の草庵に移り、自活することになります。また規則では、妻は流刑地への同道が原則です。『惠信尼消息』から、越後で信連房明信が生まれているのが分かります。家庭を構えて、子育てができる環境であったことは確かです。

第13組 浄泉寺 井上 円氏

問 当地は、宗祖親鸞聖人のご流罪の地として、「親鸞さん」と親しみを感じている人が多いですね。なぜ、ご流罪の地が五智になったのでしょうか。そして、当時の頸城はどのような状況だったのでしょうか。

更に、ご流罪中の行動は、どこまで許されていたのでしょうか。



**第8組 明岸寺 法隆 光昭**

同朋会の案内をもつていくと、「ウチにはいいですよ、行かないから」と言う人がいる。「まあ、そう言わないで」と法語と共に置いてくる。だが僧侶ぶる振舞は、宗祖に叱られる。他者の地獄落ちは、今は放つとけ。自分の教化こそ急げ。

ご門徒「仏教の目的は布教だよね」の一言が、妙に気に掛かっている。

**第4組 養性寺 内山 真明**

第4組は特に公開講座はありません。社会問題部門から2回目のリポートが出ました。

個人的な事ではあります。6月にありました四組教学研修会にて、「堪忍土」なる表現を久しぶりに聴きました。普段から法話で、「娑婆」や「穢土」と表現する私にとって、そういえばこう言う表現があったなと思えば、いい機会をいただきました。

**通信員より**

**ねほりはほり**

**拝啓**

**第11組 光圓寺 竹内 淳一**

思い起こしますと人間観、本願48別願文もまた、サハ一世界相を説いたうえで、対する観彼世界相として第1願・第2願の無三悪趣、第3願の真無價、第4願の無相からなる真のブツの世界にはじまり、通力無窮など仏国土住生人の人間観と菩薩の縁起が観ぜられ、誓願され、世親の眼目は、仏菩薩も本願に南無された方、安楽仏国に往生されることを切望する存在、という人間観であります。もろもろのいきとしいけるのちにはニルバーナ（囚われ無い明るく柔らかな静々とした、フリーダムそのもの）を求めて、我こそ然らぬ、と！

**第5組 聴信寺 居多 啓**

今年は二年ぶりに直江津の祇園祭が復活するようです。賛否あるようですが、鬱屈とした空気が晴れていない現状の打破。また、技能の継承が途絶えないようにしてほしい。か。

一抹の不安は残りますが、少しでも街に活気を取り戻したい、後世に繋ぎたいという願いの形なのだと思います。コロナを口実にせず、それでもやるのだという姿勢には背中を押される思いです。

**第1組 光照寺 梅澤 謙吾**

潮が引いた海岸に取り残された鯨に潮が満ちてくるまで水をかけ続けたり、川から岸に上がれなくなった象をなんとか引き上げたり、人はなんの見返りがなくても、とても優しいことがあります。でも人同士どううまくゆかないことが多いみたいです。面倒くさいですね。

**第12組 善立寺 山越 英隆**

私の所属します「みなもと同朋の会」では、5月25・26日に一泊研修会が行われました。会場は改装された池の平青少年センターで、本当に久しぶりの一泊研修でした。

皆の顔にあふれたコロナ禍からの解放感が印象的で、多分、一生忘れられないでしょう。

**第6組 福成寺 鎮西 広円**

第6組は大きく六ブロックに分けられていて、現在では各ブロックで日にも講師も会場も分かれて、春頃と秋頃に宗祖親鸞聖人講座を開講しています。たまたま春の講座では二つのブロックが開講されませんが、少しずつではあります。仏法を聴聞する場が戻ってきているように感じます。マスクやアクリル板という壁はありますが、オンラインではなく直に顔を見合わせる大切さや感動をひしひしと感じている今日この頃です。

**第2組 常圓寺 鈴井 祐恭**

過日、近隣のご寺院にて親鸞聖人750回御遠忌が厳修され、お手伝いに行きました。裏方より参詣者で満堂となった本堂を見て「この光景はいつ以来だろうか？ 新型ウイルス前？ いやいや昔の真宗寺院の日常の光景では？」そんなことが頭をよぎりました。

**第13組 福浄寺 井上 立英**

「暑熱馴化」という言葉を最近よく耳にします。徐々に体を暑さに順応させることだそうです。夏に向かってくる中でコロナへの対応も徐々に変わろうとしています。寺の行事も少しずつ動き始めました。形態を変えつつ現状で出来ることを模索しています。

**第7組 願生寺 平出 文勇**

先日、第13組光徳寺様の「第12回問法夕べ」に参らせていただきました。先ず講師1 大田治史先生より「グローバルとローカル」ウクライナ危機を考える、講師2 寺本青嶺先生より「祇園精舎」「薩摩の千代女のうた」琵琶の弾き語り、講師3 園家信男先生より「龍樹章」第一席「節談説教東伝流、講師4 葦原理江先生より「私に会う」創作節談説教。という錚々たる顔ぶれと素晴らしい内容に、たくさんのお話をいただきました。今後は教区主体で全寺院の問法会の情報共有や、ネット配信など、たくさんの方々に聞いていただける方法を早く作るべきではないかと思いました。

**第3組 正光寺 高橋 良暁**

4月16日に、高田別院を会場に「高田教区お持ち受け大会」が行われました。まずはじめに帰敬式が執行され、100名以上の方が本堂で門首から剃刀を受けました。その後、勤行、門首あいさつ、記念講演が行われました。帰敬式のお手伝いをするなかで、改めてその意義を考える機会になりました。また、コロナ禍で無事に開催でき安心しました。

**ココロテラス**

「どうして勉強しなくちゃいけないの？」

こんな質問が届いたよ

子どもならだれもが一度は思ったことがあるかもしれないね。響流寺のテラスさんに聞いてみたよ。

昔から「子どもの仕事は勉強だ！」なんて言われているけれど、まったく納得できないよね。

勉強は大きく分けると「新しいことを覚えたり、できるよになつたりすること」「考えること」の二つに分けることができるんだ。覚えることが苦手という人は多いよね。実は、覚えることってそんなに重要じゃないと思うんだ。今の時代、インターネットで簡単に情報を調べることができるからね。でも、その情報は本当なのか常に疑うことは忘れずにね。さて、その情報を材料にして、今まで気づかなかったことを見つけていくことが「考える」ということなんだ。一つのことでもいろいろな考え方ができるはず。いろいろな考え方ができるように、自分自身を育てていくことが勉強なんだ。いろいろな考え方ができるよ。例えば、あなたの生活のために多くの人が努力や苦勞をしていること。あなたが生きていくために、たくさんのお金の命をいただいていること。その気づきは、周りの人への思いやりや命への感謝の気持ちにつながるかもしれないね。

勉強することは、自分のためだけでなく、あなたの大切な人や世の中の多くの人を救うことにもなるのではないかな。

テラスさんに聞きたいことがあったら、メールや手紙を送ってください。待っています。

**コトバキラリ**

**心のスイッチ**

東井 義雄

人間の目は ふしぎな目  
見ようという心がなかつたら  
見ても見えない  
人間の耳は ふしぎな耳  
聞こうという心がなかつたら  
聞いていても聞こえない

頭もそうだ  
はじめから よい頭 わるい頭の  
区別があるのではないようだ  
「よし、やるぞー」と  
心のスイッチが入ると  
頭も  
すばらしいはたらきを始める

心のスイッチが  
人間をつまらなくもし  
すばらしくもしていく  
電灯のスイッチが  
家の中を明るくもし暗くもするように

東井義雄（一九二一年—一九九二年）  
教育者、浄土真宗僧侶



ステンドグラスの欄間

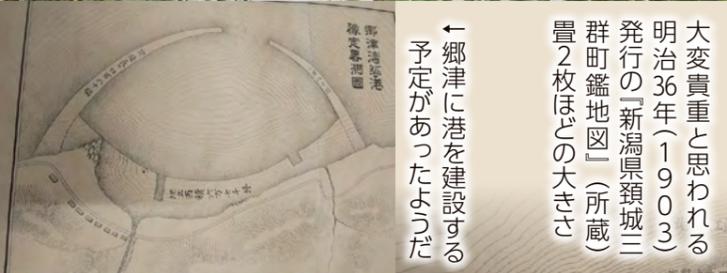
↑以前は板張りの欄間であったものがステンドグラス工房を経営しているご門徒と協力して2002年に出来上がったもの



桑取川を見下ろす  
秋にはさげが遡上しこの場所  
で捕獲している



境内より日本海を望む



大変貴重と思われる  
明治36年(1903)  
発行の『新潟県頸城三  
群町鑑地図』(所蔵  
豊2枚ほどの大きさ)  
←郷津に港を建設する  
予定があったようだ



2mを越す羅漢マキの生垣は  
境内の雰囲気を重厚にしている



柱の太さや虹梁の模様の丸みから1600~1700年代に  
建立された本堂であると推測されている



参道階段



流泉寺入り口



橋より桑取川を望む  
正面の木々の中に流泉寺が佇む



昭和63年(1988)の屋根の葺替工事を行う以前の  
茅葺屋根の本堂



春日山 流泉寺

海の見える丘にある

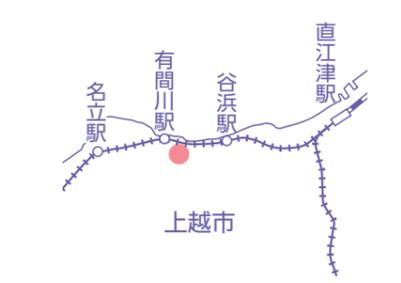
そうだ  
お寺に行こう

真宗大谷派高田教区寺院探訪④

編集長がゆく



↑北陸線(現日本海ひすいライン)がまだない  
建設予定路線も以前の北陸線だった現在の『久比岐自転車歩行者道』よりも随分と内陸部に予定されていたように見える



春日山 流泉寺

高田教区 第5組  
住職 安達 恩  
〒949-1702  
新潟県上越市大字有間川838  
Tel.025-546-2446



駅舎からの眺め



流泉寺の最寄駅  
有間川駅

桑取川の河口には国道8号線・久比岐自転車歩行者道・日本海ひすいライン・そして有間川集落へ続く一般道の四本の橋が海側から順に所狭しと並んでいます。そのうち一番上にかかる有間川集落へと続く橋を渡ると程なく流泉寺があります。しかし、見晴らしのよい橋の上からでも見当たりません。木々にすっぽりと覆い隠されているのです。通りから左に曲がるとお寺の参道へ続く道です。あまりの狭さに歩行者専用道路と思いきや軽自動車は通れるとのことでした。そして、その先の参道階段を登ると流泉寺本堂の全貌がようやく姿をあらわします。

本堂をお参りさせていただくとやはり目を引くのはステンドグラスの欄間です。お寺の本堂の欄間にステンドグラスとは不思議な感じがするかもしれませんが、足を運んで見てみると決して違和感はなく、この地域の環境や風土だからこそ自然とこうなったのだという斬新且つ適切なしつらえに感じました。

第16代住職は焼香台やお供物台などを自作されるなどお参りしやすいよう配慮されています。このような日頃からの手作りの護持活動や郷土の歴史や風土を大切にされてきたことが大胆ともとれるような発想につながっていくのではないかと感じました。

昔からの古いものを大切にされているからこそ未知の世界に踏み出せたのではないかと、『温故知新』を学ばせていただいた気でおります。

桑取川の畔の、海の見える丘にある流泉寺は周辺環境も、境内も、わたる風も、本堂の雰囲気も、そして寺号も、どれをとっても涼やかでさわやかなお寺でした。

編集長記

# 門徒仏々 言いたい放題

⑦

西洋の宗教改革の波は遙か東洋日本にも影響を与えた。ルターの宗教改革で新たなキリスト教のプロテスタントが誕生した。

ローマ・カトリック教会は宗教改革を受け、東洋の布教を図るべく、イエズス会のフランシスコ・ザビエルを宣教師として日本に派遣した。学校の教科書にザビエルの肖像画が載っていた。ザビエルが来日した戦国時代は、群雄割拠の下剋上の世の中で織田信長が頭角を現す。ザビエルは日本の為政者・信長に近づいた。若き信長は西洋文明と文化に興味を湧いた。進取の精神に富む信長の世界観が深まる。日本には種子島から鉄砲が伝来していた。西欧の技術知識は固より、交易による国の繁栄を日本の将来の夢に見た。信長には宗教への関心は毛頭無く、寧ろ比叡山延暦寺などの国内宗教を憎み、宣教師ザビエルとフロイスに媚を売

り、知りたい軍事技術で船縁を鉄製にして、瀬戸内の制海権を握る。信長はザビエルの布教の目的を逆手にとっていいとこ獲りをした。本能寺の変で木下藤吉郎に運が回る。天下を握る豊臣秀吉は異教への理解が薄く、寧ろ頑なに警戒した。信長が恐れた宗教勢力の比叡山延暦寺と石山本願寺による一向一揆を恐れた。刀狩りを断行した秀吉が亡くなり、天下人となった徳川家康は、信長・秀吉の轍を踏まず真逆の宗教者を懐刀にした。金地院崇伝と天台僧正の怪僧だ。更に、幕府の政策で家康は仏教を全国の組織固めに利用した。仏教各宗派の本山を頂点に、全国各地の末寺を掌握したのである。土農工商すべてに及ぶ階層の人々は、各宗派の末寺の檀家とした。仏教界にとって徳川幕藩体制は、この上ない政治形態であった。しかし人間が自ら探し求める信仰心という遠大なテーマをないがしろにしたのだ。徳川時代は日本に自由な宗教心を育てることを峻拒したともいえるのだ。奈良時代からの国家鎮護の仏教が平安から鎌倉期に於いて、民に根を下ろす

「鎌倉仏教」が芽生えた。大河ドラマ「鎌倉殿の13人」は陰謀渦巻く時代を描く。浄土宗法然、浄土真宗親鸞、日蓮宗日蓮等の宗教者が新しい仏の教えを広めた。内憂外患の動乱期に生きた宗教者は戦乱・天災・飢饉・疫病で苦しむ民衆に仏教による救済を訴えた。平安から鎌倉期は疫病が蔓延し、末法思想が広がる。法然、親鸞などの浄土信仰の宗派を含めた新しい仏教は、鎌倉時代だからこそ誕生したといえる。鎌倉期は日本初の外敵から攻撃を受けた。玄界灘にドラを鳴らし押し寄せる大軍船。「元寇の襲来」は現代においても、何ら変わらない。独裁者ロシアによるウクライナ侵攻と新型コロナウイルス感染症の行方が何れ世界の宗教界に変革をもたらすだろう。鎌倉文化の随筆『方丈記』は無常観を彷彿させる。

「行く川のがれは絶えずしてしかも本の水にあらず」救われない民衆の想いをしみじみ感じる。孟蘭盆会を前に阿弥陀仏の報恩に感謝する。隣国に軍事侵攻する為政者に門徒仏々言いたい放題を捲し立てる。

酒呑童子

## 愚僧のつぶやき

〈真宗の葬儀編⑮〉

今回は、中陰法要を頂いてゆきたいと思います。葬儀が済みますと、49日まで七日毎に中陰法要が営まれます。そもそも中陰という言葉は、人が亡くなり次を生を受けるまでの中間的存在であり、表に現れず陰に潜んだ存在であるところから、中陰と名付けられたといわれています。通仏教では、49日までに次の生の行き場所が決定すると教えられます。そこで、亡き人の為に七日毎に法要を営み、その功德を回向する事により、亡き人の悪行を転じて善処する為に中陰法要を行なう訳です。

けれども、我々真宗門徒は、阿弥陀様のおはたらきにより、この命が尽きたら、直ちにお浄土に生まれ、仏と成らせて頂

く身と定められている事であり、ですから、浄土真宗に於ける中陰法要とは、「遺族が葬儀前後の慌ただしさが済み、しみじみと湧く悲しみをかみしめ、亡き人を偲び、そのご恩を思いつつ、いよいよ人生の大事に目覚めて念仏し、本願を仰ぎ教えを聞く仏事」と意義付けています。

ただ、一つ私が疑問に思いましたのは、それならば何故、中陰法要という誤解を招く様な仏事をするのだろうかという事でした。そこで、色々と考えておりました時、ふと思いましたが、本願寺第八代の蓮如上人のお心でありました。

蓮如上人は、親鸞聖人のお心に叶う形を作る為に、様々な改革を断行されました。荘厳改革、声明改革、装束改革など。その中に、年中行事改革があります。

浄土真宗の教義からいえば、先祖供養の意味合いの強い仏事である、修正会、

彼岸会、孟蘭盆会をやめて、報恩講だけにしてもいいのかもしれませんが。でも蓮如上人は、お釈迦様ゆかりの仏事である、花まつり、成道会、涅槃会をさしおいて、正月、彼岸、盆の仏事を報恩講に次ぐ、三大法要と位置付けた訳です。

そこには、すでに民衆の中に根付いている仏事をやめるのではなく、それを念仏相続なる仏事とし、阿弥陀様のお心に遭遇してゆくご縁とする事に力を注がれた事があります。

ですから、中陰法要というものも、七日毎に7回もある仏事をやめてしまうのではなく、悲しみを「ご縁」として、「われがおるぞ、ここにおるぞ、われをたのめ」という阿弥陀様のお呼び声との出遇いを願って下さっている仏事と頂く事であり、

合掌 称六字

ペンネーム 維摩教信



注：主催は MYoko 森人、もりんちゅう、実行委員会です。

**みなさまの声を聞かせください**  
 『響流』に対するご意見、ご要望をお寄せください。また、各コーナーにご応募お待ちしております。また、下記メールアドレスにて受け付けております。  
 より多くの方に手に取っていただける教区報にするために皆様のご協力をお待ちしております。

高田教務所(響流担当宛)  
 takada@higashihonganji.or.jp

教区ホームページ運動企画「響流」～WEB版～

## ネットDE 仏教



前回に引き続き、表計算ソフトである「EXCEL (エクセル)」について解説します。今回は具体例として「決算書」を作成していきます。

今回の記事

第7回 EXCEL活用術！(2)

〈高田教区ホームページアドレス ⇒ <http://takada-kyoku.jp>〉



- ・父ちゃんも 働きなよと 我が子言う ペンネーム 坊守が稼ぎ頭の住職 A
- ・すぐやるよ 言いながら手に スマートフォン ペンネーム ドラ息子
- ・宿題？ はて ウツセエ ウツセエ コロナさき ペンネーム ドラ息子
- ・無警戒 平和を叫ぶ のんき者 ペンネーム 蛇に睨まれたヒキガエル
- ・物価高 防衛論は 生計費 ペンネーム 貧者の一灯
- ・大谷に 熱中してて 飯忘れ ペンネーム しげじい
- ・豊山 前半だけは 三役だ ペンネーム しげじい
- ・投稿が 無いので慌てて 知恵絞る ペンネーム 宏 富
- ・梅雨明けた 今が本番 どうしたの ペンネーム 宏 富
- ・夏の夜に スマホで見る 生花火 ペンネーム 崇 清

### こもれび

高田教区も最後の一年となった。高田教区報『響流』も次号と最終号の発行を残すのみとなった。個人的には任を終えることのできる安堵感があるが、その後の『響流』の行く末が気になるところでもある。教区報のみならず、新教区発足を機に組織力が強化され教化活動も充実されていくことを期待します。そのとき、伝道広報と若い方々が今まで以上に活躍されていることでしょう。若い方々の体力と柔軟さと行動力に期待します。  
 (淀野)